

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と年度の職場目標を各フロアに掲示し、共有するよう心がけております。	経営母体理念「愛・奉仕・感動」、職場理念「笑顔・初心・協力」と共に、職員会議での話題や学びから、管理者はこれらの理念を基に、その年の職場目標を決めている。利用者や面会に来られた家族にも伝わるように各フロアに掲示し、朝礼時に唱和している。管理者と職員は、その目標について、具体的なケアを話し合いながら日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第3の金曜日を開催予定として、毎月は実施できておりませんが、交流のある地域の方々をお招きして、苑での本格的な茶会と、歌や踊りの楽しい時間を過ごしております。	今年町内会で行った避難訓練には、その日参加できる多くの利用者が、近くの高校までの避難に参加した。一昨年まで定期的に行われていた「ほほえみカフェ」は、現在休止しているが、地域コミュニティの一部の方たちが、「利用者のお友達」のように、昔からの近隣つながりを大切にしており、お茶会のような形で継続した交流も続いている。管理者・職員も出来るだけ地域の祭りや行事に参加できるよう支援を継続している。また、事業所内の畑の手入れや地域の方との収穫物での芋煮会等も利用者の張り合いになっている。福祉教育の実習生受け入れの場としての役割や海外実習生受け入れなども行っており、地域社会への貢献とともに気軽に立ち寄れる場所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の参加者にご利用者の近況報告を通じて、認知症への理解と支援方法について話し合いを持ち、理解を深めて頂けるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑でのご利用者への関わり、近況をご報告しながら、ご家族や地域の方々からご意見を頂き、より良いサービスに繋げられるように取り組んでおります。	運営推進会議は定期的開催されており、記録の整備が行われている。市職員、包括支援センターや近所の方、同市他事業所職員、利用者や家族の時折の参加もあるが、現在参加者メンバーの減少が見られる。今後も、地域の方の任期満了に伴う交代変化等予測されるが、より多くの利用者・家族、地域の方に参加してもらい、事業所への理解や意見をもらいながら、それらを日々のケアに活かせるよう、継続して取り組んで行くことが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には、運営推進会議に参加頂き、取り組みや実情を報告し、ご意見を頂きながら、協力関係を築いております。	市担当者の運営会議への参加とともに、開催した際の運営推進会議の議事内容を記録し、報告しており、相談ごとがあれば意見をもらうなど双方向的な協力関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを定期的なミーティングを通じて、意識を高め。スタッフ間で共有できるように心がけております。	事業所では身体拘束禁止に関するマニュアルがあり、定期的に行われているミーティングで、「グレーゾーン」の認識に関する話し合いを持ち、情報共有できるようにしている。	今回、年度後半に申し込んでいた「身体拘束禁止」と「高齢者虐待防止」の外部研修が新型コロナのため主催者中止になり、予定していた内部の伝達研修も行われなかった状況がある。今後は外部研修や伝達研修は勿論、「報道記事を読み合うこと」や「今起きていること・感じていること」等、身近な問題について、常に向き合い、身体拘束禁止・虐待防止等の研修が計画的に行われることが期待される。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について注意喚起し、ミーティングを通じて、虐待が起こらないように職員間で意識を高めて、防止に努めております。	事業所では虐待についてマニュアルがあり、話に出してはいるが、詳しい研修は行われていない状況が窺える。管理者は、現場にいる時には職員の不適切な言葉かけなどには、その都度丁寧に声をかけるようにしており、日々のケアでの気づきはミーティング等で話している。	今後は、ミーティングでの話し合いを記録に残し、見過ごされることのないように徹底し、定期的な職員のストレスチェックや職員の疲労改善のための取り組みへの支援を期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方が2名入居されており、安心してグループホームでの生活が営めるように関係者と共に、ご本人を支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居に際し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来苑は日常的にあり、また、ご本人とご家族、ご家族と職員が電話や直接でも、お話する場面もありますので、ご意見を頂いた場合は、反映できるように努めております。	家族から提案された話は、大切に支援に活かしていくように努めている。毎月の報告には利用者の生活の様子ができるよう記載し、家族との面会時はゆっくりとした気持ちと時間が過ごせるよう心掛けている。意見箱は設置しているが中々投書されないの、面会時・電話でのやり取りなどで意見や意向を反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ケアマネ共に現場を兼務しているため、日常的にスタッフからの意見や相談を受け、改善点を共に考えていくようにしております。	職員会議は年1回開催しているが、こまめなミーティングは常に行っている。管理者は、日々職員と共に現場での時間の中での意見や思い、職員体制に関することなどを経営母体の代表や管理者会議などに伝えている。	
12		○就業環境の整備			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の管理者の意見を反映させるように考慮したり、職員個々に対しても希望時には面談して、改善や向上心に繋がるように努め、働きやすい環境作りに尽力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を掲げますが、研修への参加は少ない状況でした。働きながら、研修参加が無理なく行えるように、今年度は改善してまいります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHと年1回、合同で職員交流する機会があったり、2ヶ月毎に管理者同士の意見交換の場があります。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族にご意見を頂き、ご本人が安心して生活ができるように努めていくことをお伝えしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご本人とご家族の意向を大切に伺いながら、継続的な支援にはご家族の協力が不可欠である事をお伝えし、共にご本人を支援していく方針であることをご説明しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、状態に応じ、定期受診対応をご家族に依頼しますが、連携医がいる事や、急変時の対応、ご家族が不都合がある場合、その限りではなく、適宜対応する事等をお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に生き活きと共同生活を送って頂く為に、それを支える立場にある事を意識しながら、ご利用者と職員が共に、和やかな家庭の雰囲気作りができるように努めております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時より、ご本人のGHでの生活には、ご家族の協力が不可欠であることをお伝えしてきました。入居後もご本人が家族との絆を持ち続けられることを意図しており、一貫して共にご本人を支援する姿勢を大切にしております。	雪の季節を除き、春から秋までは外出や外食等が行われている。自宅に行きたい希望の方もおり、ご家族の協力が得られ、職員が同行したりしながら、次第に落ち着きが見られた方もいる。また、事業所周辺は、お祭りの多い地域出身者もおり、出発する場面で、早朝からのお祭り見学希望者の支援では、継続することで、利用者が張り合いを持つなどにつながった。絆が途切れないよう地域・家族・職員が協力しながら支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本格的だけど窮屈でないお茶会を苑で開催しており、お茶会后に歌や踊りをご利用者と楽しんでいかれます。馴染みの美容室にも連絡すると、苑に送り迎えして下さる方もおられます。	事業所は町中にあり、すぐ近くに農産物直売所のお店などがあり、出かけやすい環境にある。気さくなお茶会や歌を唄うなどの地域の方の訪問がある。また事業所敷地内には、畑があり野菜やサツマイモを育て、食べることの楽しみを継続しながら、今までの生活を大切に日々のケアが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、和やかな雰囲気の中で、無理せず、居心地良いと思える関わりを心がけております。ご利用者同士が自然に求めて関わり合う様子がたくさん見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられても、これまでの関係性に変化が生じることはありません。変わりなくご相談に応じ、できる限りで、対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、生活暦や趣味、嗜好の把握をしながら、要望やニーズの受容を心がけております。ニーズに対して、折り合いを持ちながら対応していくことが、その方を尊重する事と考えております。	入所時に管理者か計画作成者が、入所前のご自宅などに伺い、本人からの話を聞きながらアセスメント情報を得られる部分と、家族に記入していただく形で情報を集めている。その中から意向の確認や思いなどの把握に努めている。担当だったケアマネジャーからの情報や本人の好きなことなど、できるだけ聞き取れるよう心掛けている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の馴染み、生活暦、生活環境を考慮し、できる限りでその方の“今まで”に添える生活の継続に努めています。	入所前の担当ケアマネジャーからもらう資料や、入所時に記載してもらった資料からも把握している。特に日常生活の状況や主治医や暮らし方などの希望などを大切に確認している。入所後の面会時に得られる情報もあり、管理者・職員はそれらも、できるだけ今迄の生活の継続につながるよう工夫しながら支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が、心身共に健やかで、苑での暮らしが「第二の家」として安心して穏やかに過ごせるように、心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員と計画作成担当者を主に、ご本人やご家族の意向を反映したものになるように努め、現場職員の意見も考慮しながら、作成しております。	介護計画は入所前の関係機関からの情報を基に、本人と家族の意向を汲みながら作成し入所一か月後に見直し、その後は居室担当者や関係職員がモニタリングを続け、計画作成担当者が確認しながら利用者の現状に即したプランになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者へのケアの内容は、個別記録に残す他、ケア内容の提案は、業務日誌や休憩室に挙げて、職員間に意見を求め、改善しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所時から、一貫して既存のサービスにとられない対応力を自負しております。その姿勢に変わりはありません。就寝前に晩酌したいと申された方は、火、金の休肝日以外は、ビールや熱燗につまみを付けて、提供しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の避難訓練へ参加することで、地域の方々と共に防災への意識を高めています。近くのふれあい市で買物したり、カフェでアイスクリームを食べたりもしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	苑の連携医との関係はもちろん、連携医以外の医師がかかりつけであっても、苑の看護師が主体となって連携し、迅速で適切な対応ができるように努めております。	利用者の約半数が入所前からのかかりつけ医で受診を継続している。受診時は連絡票などで医師との連携が取れており、心配な利用者には看護師が同行している。看護師は薬の確認や不在時にもオンコールでの対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報共有を行い、連携して対応しており、緊急時はオンコールで駆けつけ、迅速な判断と奉仕の心で、介護士と連携し、ご利用者を支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関やご家族と退院の日時等の連絡を行い、退院時の状態報告についても、病院関係者と連絡を取り合い、早期退院に繋がるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、苑で可能な限りの対応をする事と、選択肢として苑での看取りを行うことも、ご家族にお伝えしています。終末期に、医療的部分のリスクが大きくなる限り、連携医やかかりつけ医と連携し、可能な限り、苑で支援できるように努めております。	入所時には簡単な説明にとどめておき、重度化した段階できちんと看取り介護の指針を基に説明し同意を得ている。利用者の状態を見ながら事業所で対応できる限りは支援し、対応できない場合は他の施設や病院へ繋げている。昨年是一名の方、開所以来数名の方を看取った経験を職員間で共有し、終末期の在り方について、家族の意向に沿った支援ができるように努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備えての研修に参加し、職員に周知させ、日々の特変対応も通じ、実践力を身につけております。	急変や事故発生時のマニュアルは備えてあり連絡網なども更新している。利用者の救急シートもあり搬送時の対応はできる体制である。AEDの研修に関して開設当初はきちんと実施していたがここ数年実施されていない状況である。	利用者の生命にも関わる初期対応の研修や訓練が行われていない現状に、管理者は応急手当普及員として心を痛めている。職員が少ない現状で緊急時の応急手当の研修や訓練の機会を設けることが厳しい状況にあるが、今後は早急に実施し、職員全員で実践力を身につけることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加し、地域の方々も苑の様子を周知して頂いています。苑の避難訓練を通じて、職員が少数でも避難誘導ができるように訓練しています。	地域の避難訓練には参加し地域の方の協力も得られている。災害時のマニュアルも備えてある。備蓄品については年度末で入れ替えをしている時期であり、品目について検討中で不足していたが近日中に補充されるとの事である。今後も定期的な点検と補充が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と関わる際、「もし自分や、自分の大切な家族や人がこのようにされたらどうか」と考えてほしいと職員に話し、人格を尊重することの意義を実践して伝えております。	プライバシーの確保に関しては管理者が一番大切に行っていることで、日々のケアの中で伝えたり会議の席で話したりしている。研修に関して現在の職員体制では実施できていない現状である。居室入口には暖簾が掛けてあり、ポータブルトイレを置いている利用者には布で覆うなどの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の観察から、動作や仕草など、伝えられないニーズがあって「もしかしたら、こう思っているのか」と考察するように努めています。安心できる配慮とさりげない支援を心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者と介助者の関係は、人と人の間柄であり、そうなると必然に介助の一方的なケアはできないと考えます。人と人の折り合いや距離感を大切にしたり関わりを心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向で、馴染みの理髪店に行かれたり、女性らしくネイルボランティアのケアを受けて頂くこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にも食事の下準備を手伝って頂いたり、希望に合わせ、寿司やラーメンの外食へ出かけたり、2月より調理員が産休に入っておりますが、指導の元、変わらず、喜んで頂ける食事の提供に努めております。	事業所には畑があり利用者と一緒に作業をしている。採れた野菜を使っての調理や食事の際でのテーブルを拭く、食器洗いなども一緒に行っているのを見守っている。また収穫したさつま芋などを使って「芋煮会」を開催し、地域の方からも参加してもらっている。時には予定を立てて外食に行くなどして食べる楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録、栄養状態を把握し、嗜好や禁止食材、食事形態を職員間で共有しております。調理員の指導の元、充実した内容を継続しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングで、適宜行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、個々に合わせた声がけと配慮を行っています。居室トイレの環境設定を行い、安全に、今できる限りの残存機能を活かした支援に努めております。	自立、一部介助、全介助など利用者の排泄の自立度に応じて、排泄チェックや排泄パターン表で確認を行っている。日中は下肢筋力を維持するため、歩行器を利用して移動できるよう声掛けしている。身体的にも機能が低下しないよう、見守りをしながら居室やトイレの中の環境を整え支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、適宜、整腸剤、下剤投与で排便コントロールを行っていますし、生活習慣に合わせ、個々にヤクルトやヨーグルトを購入して、提供することもしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後に入浴を分けて、タイミングを考慮して、気分良く入浴して頂けるように努めております。入浴剤や季節の菖蒲湯も好評です。浴槽が2箇所あるので、その日の状態で選んで頂くことが可能です。	入浴介助専門の職員がおり利用者の希望に沿った時間帯や曜日に対応できていて大変喜ばれていたが、現在はできなくなったとのことである。その中で、気持ちよく楽しく入ってもらよう利用者とのコミュニケーションを大切にしながら支援している。利用者の状態やその日の体調に合わせて対応できるように普通浴槽やリフト浴槽を使用して入浴を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリのある生活の提供はもちろんですが、無理強いをしない、その方の生活習慣に合わせることも重視しております。安眠に繋げる為の就寝介助も考慮して取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、苑の看護師が主体となり、個々の内服状況や内服薬の説明においても、細やかに職員に可視化し、共有できるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	苑では、職員の関わりだけでなく、入居前と変わらずに、ご家族にも協力頂き、気分転換が図れるような外出をしたり、双方でご本人を支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の職員との外出だけでなく、ご家族とご本人が温泉や外食に行かれたりもしております。大須戸の能や、地域のセンターでの文化フォーラムも興味や、希望があれば以前のようにお連れしたいと思っております。なるべく、ニーズを大切にしていきたいと努めております。	利用者の希望に沿って職員や家族の協力で外出の支援をするよう努めている。以前は地域の方の協力があり外出ができていた。管理者や職員は、この事業所の利点の一つでもある恵まれた地域での利用者の生活支援を大切にしたいと考えている。地域の世代交代などあるが、今後も、新たな地域の方やボランティアの方に協力をお願いして、すぐ隣にある農産物の直売所や以前良く行っていた地域コミュニティー主催の催しやお茶会などへ出かける支援していきたいと現在考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しておりますが、ご希望に応じて買物を代行したり、一緒に出向いて好みの物を買物したりもしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からご本人に電話がきたり、ご本人がご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境としております。	玄関には春の花が植えられたプランターがあり明るく、ホールは天井が吹き抜けて開放感があり白壁と木材の梁が調和し落ち着いた雰囲気である。テーブルは4つのブロックに分かれ利用者同士の関係性を配慮してある。掲示板には手づくりの作品が飾られ生活感が感じられる。トイレも車いす対応に広い造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアは、食事席、リビング、畳の間があり、用途に合わせて、ご利用者がどこで過ごされるかは自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方の生活習慣が感じられる環境作りをしています。お孫さんの絵や写真を貼っておられる方もいます。お孫さんの面倒を沢山見てこられた方のように。	居室は利用者それぞれの好みの仕様に工夫されており、馴染みの家具を持ち込んだり、あまり物を置かずにスッキリとした居室などもあるが、職員による掃除が行き届いており清潔感が保たれている。車イスなどはクローゼットの下の空間に収納できるようになっており、利用者が安全に動きやすい動線となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活暦を考慮し、安全に無理なく生活を楽しめるような環境を心がけております。できることが長く続くように、さりげない支援と介助で、自立を支援しております。		